



SESERAGI—MISHIMA ROTARY CLUB WEEKLY REPORT

クラブ
週 報

2017～2018年度 RI会長 イアンH.S.ライズリー
RIテーマ ロータリー:変化をもたらす

クラブテーマ「奉仕・親睦 自分たちにできること」会長 山口辰哉

副会長 石井司人 幹事 宮澤正昭

第1359回 例会 2018.3. 16(金)雨

司会:田中錦城君 指揮:藤川智徳君
ロータリーソング「日も風も星も」

事務所 三島市中央町4-9 小野住環中央町ビル2F
TEL.055-976-6351 FAX.055-976-6352

<http://www.seseragi-mishima-rc.gr.jp>

せせらぎ三島ロータリークラブ

検索

例会場 呉竹

TEL.055-975-3210
毎週金曜日 第1・第3 夜間例会

会長挨拶

会長 山口辰哉君

兵藤さんの件につきましては、まことに残念でした。申し訳ありませんでした。

暖かくなってきました。通勤途中に春近くになると、というか春になるとなんでしょうか、必ず白い木蓮が咲く場所があります。梅や河津桜などは早ければ1月中旬ごろから咲き始めます。しかし花は咲くものの寒い日は一向に去る気配はありません。木蓮はこれが長い冬から抜け出るのもうすぐだ、という感じを味合わせてくれます。でもほんの数日で散ってしまいます。散るというより落ちるという感じがしますが。いずれにしろ、少しは暖かい中でゴルフができるようになります。着ぶくれ状態でのゴルフは、私が正真正銘の三島三桁会会長であることを証明していました。薄着になって少しは改善されるのか多少楽しみではあります。実際には気のせいで何も変わりはありませんが。

先週は触れませんでした、先週の8日は「世界女性デー」(国際女性デーともいう)。「Mee too」の話ではありません。ご存知の方もいらっしゃると思いますが、スコッチで有名なジョニ黒というのがあります。半世紀は大げさですが40年ぐらい前までは、外遊をするとお土産にジョニ黒を買ってくることも多かったと思います。うちにはありませんでしたが、よそ様の家に行くとサイドボードの中に鎮座しているジョニ黒。誰も開けようとしません。見るだけでした。当時は今でも考えられないくらい高価でした。そのジョニ黒が、今年の「世界女性デー」に合わせて「Jane Walker」を販売しました。ただし、アメリカ国内だけです。250,000本という限定商品です。ジョニ黒はシルクハットをかぶって歩く男性がロゴになっていますが、Jane Walkerは同様にシルクハットをかぶって闊歩する女性が描かれています。1本34ドル、1本につき1ドルを女性支援団体に寄付をするそうです。とりあえず限定ですが、「男性と女性、これから一緒に歩んでほしい」という気持ちがあるようですので、広がりを見せるかもしれません。日本でも手に入らないかと思い「Jane Walker」で検索してみると最初にアマゾンサイトが出てきました。ただし広告ですが。「お急ぎなら当日お届け」なんて出ていますから思わずクリック。全く別ものでした。このJane Walkerを数本手に入れました。4月中旬に

は手元にあると思いますので、元会員の新井さんの店に置いておきます。

さて、3月16日はどんな日か。1934年のこの日、内務省が瀬戸内海・雲仙(現在の雲仙天草)・霧島(現在の霧島屋久)の3か所を国立公園に指定し、日本初の国立公園が誕生した。現在、29の国立公園が指定されている。

出 | 席 | 報 | 告 |

	出席総数	出席率	メイクアップ	修正出席率
前々回	25/33	75.76%	28/33	84.85%
今回	27/32	84.38%	会員総数	36名
欠席者	あなたが見えなくて残念でした。			

石井(和)君、大村君、杉山(順)君、服部君、中本君
(*出席免除会員の欠席者 大房君、澤田君、鈴木君、山口(雅)君)

今日の料理



スマイルボックス

澤田 稔君:本日、卓話の予定でしたが、石井司人次年度会長にお願いしました。クラブの30周年記念に関するお話をしていただけだと思います。よろしくお願いします。

山口辰哉君:LINEのカバー写真を変更したところ、普段連絡を取っていない友人・知人たちから「いいね」やコメントが入ってきました。「いいね」とはこういうことかと初めて知った次第です。ちなみに最初に反応してくれたのは土屋巧君でした。ありがとうございました。

石井司人君:久々の卓話です。よろしくお願いします。

原 兄多君:本日、所用により早退します。申し訳ありません。



今日は、メンバーが若返りしておりますので、私のプロフィールを、改めてお話しさせていただきたいと思います。私は函南町仁田に農家の四代目として産まれました。物心ついた頃、昭和33年9月26日に狩野川台風と、遭遇しました、ラジオでは、風台風なので対策をと放送されて、板で、戸締めして通り過ぎるのをじっと待っていた所、予想以上の雨が天城山に降りそそぎました、あっと、ゆう間に山間部ではなすすべも無く、下流部に家ごと流されて、伊豆の内陸部は、散々な瓦礫の山にされてしまいました、行方不明者を含めて、1024人の犠牲者を出しました、私も小学一年生の時でしたから、避難勧告が出て、近くの高台にある、幼稚園に家族で避難しましたが、家を出る時に、風が西風が変わったと思ったら、風に乗って、助けてくれ～と言う声が聞こえました、怖さで足が震えて、今でも耳に残って、台風に対して俗に言う、トラウマになりました、今でも台風が近づいてくると、怯える自分がおります。そして地元の中予、高校に進みましたが、今の臨床検査技師の資格を取るために、推薦入学の恩恵に預かり、麻布大学に進学し無事資格を取得して、沼津市立病院に就職し経験を積み出しましたが、その時期に、家族に病気が降り注ぐように襲ってきまして、祖母が心筋梗塞で亡くなり、父が就職した年の秋に倒れ、母は前年度に手術した後に、敗血症にかかり一命を失うような危機に直面しておりました、そんなことを考えていると、農家の長男の責任感もあって、兼ねてから考えておりました、血液検査のセンターを設立する決心を固めて、全国でも、一番若いセンター長として、開業すべき準備を始めました。先ず、資金です。総額五千五百万円が、必要だと出てきました、手もちがある訳ありません、銀行が頼りです、何処も簡単には若僧の私には貸してはくれませんでした、途方に暮れて居ました。その時に有る銀行が、我が家の資産評価証明を求めて来ました、さすがですよ、石井家の財産が担保してくれば、貸しましょうと言ってくれました。相当な、プレッシャーが私にかかって来ました。金利は、9パーセントですよ、その頃の郵貯の金利は8パーセントでしたから、たいへんでしたが、頑張るしかありませんでしたから、スタートしました。26才の駆け出しの技術者の行方はいかになったかは、Part2でお話をさせていただく機会が有ると思います。原稿にも限りがあると思いますので今回のお話はこれぐらいで失礼します。



ROTARY NEWS

世界銀行と国際ロータリーが
「国際女性デー」のイベントを開催

革新的な人道プロジェクトを実施し、人びとの生活に変化をもたらしてきた3人のロータリー女性会員が3月7日、ワシントンD.C.の世界銀行で行われた国際女性デーにちなんだイベントで表彰されました。

ロータリー世界人道奉仕賞の受賞者でもあり、ハワードウェスト・ロータリークラブ(米国メリーランド州)会員のジャヤラムさんは、自身が設立したメンタルヘルス・クリニック「マナシ・クリニック」について話し、南インドの200以上の村に住む貧しい人びとと約2,000人(ほとんどが女性)に総合的なケアを提供していると語りました。ジャヤラムさんが設立したこのクリニックは、発展途上国におけるメンタルヘルスの向上に寄与しており、世界保健機関からも認められています。クリニックではまた、視力、聴力、老年にともなう問題に対する治療や職業リハビリも実施しています。2002年の創設以来、約600万世帯がこのクリニックを利用してきました。「女性たちは私を家に迎え入れ、自分たちのストーリーを語ってくれるのです。このような女性たちに感謝されることで、私自身も大きなやりがいを感じています」とジャヤラムさん。「これこそ、私たちにとって大きな贈り物です」ジャヤラムさんは、ジョンズ・ホプキンス大学(米国メリーランド州ボルチモア)医学部の精神科・行動科学の准教授です。

アビジャン・ビエトリー・ロータリークラブ(コートジボアール)会員のマリ・イレネ・リッチモンド・アホアさんは、コートジボアールのポリオプラス委員長を務め、現在は、西アフリカにおける予防接種活動の調整を担当しています。国際コミュニケーションのコンサルタントとして、コートジボアールでの国連の取り組みにおいてアドバイザーを務めた経験もあります。アホアさんはまた、2017年ロータリー国際大会で、ビル・ゲイツ氏によりそのポリオ撲滅と平和への献身在り称えられました。「ボランティア活動は私に幸せをもたらしたと同時に、涙を流したこともあります。違った視点から世界を見ることができるようになりました」とアホアさんは語りました。「どんな困難が立ちかはだかろうと、自分たちが実施する活動を信じ、適材適所を实践して、チームを信頼しなければなりません。そうすることで、他者の立場に立って物事を見ることができ、より多くを達成できるのです」

コロナド・バイナショナル・ロータリークラブ(米国カリフォルニア州)会員のダニエル・デ・ラ・フエンテさんは、アマル・アライアンスの共同創設者です。この非政府団体は、社会開発・教育プログラムを通じて世界中の難民児童を支援しています。フエンテさんは、世界で6500万人がやむなく住む場所を追われており、その77%が子どもであると紹介しました。「子どもが夢を持つことができない世界を想像してみてください」とフエンテさん。「私はそんな世界を受け入れることはできません」ワシントン D. C. にある国防大学に勤務したこともあるフエンテさんは同大学で、中東と南アジアの関係向上のために尽力しました。「人の思いやりが今まさに必要とされています」とフエンテさん。「次世代が夢を持つことができない世界など、未来とは呼べません。行動し、変化をもたらしてください。私にとってはそれが、難民児童の生活を改善していくという活動なのです」